

## アジア最大級のネットワークコンピューティングイベント 「Interop Tokyo 2005」幕張メッセで開催



恒例のネットワーク関連イベント「Interop Tokyo 2005」が今年も千葉・幕張メッセで開催された。

展示会は6月8日から10日まで開催され、主催者の発表によると3日間で合計152,243名の来場者を記録した。

基調講演「IPv6で実現する次世代コンバージドネットワークと進化する通信」

6月10日には、ノーテルネットワークスのCTO フィル・エドホルム氏による「IPv6で実現する次世代コンバージドネットワークと進化する通信」と題する基調講演が行われた。

エドホルム氏は、この講演において、同社が描くネットワークの未来には、IPv6が不可欠と語った。

マルチメディア化、セキュリティや個別化、そして動き回る自由を人びとは求めており、特に電話をかけるという行為が、セッションによる常時接続にとって代わろうとしているのは重大なパラダイムシフトだとエドホルム氏は話した。こうしたシフトに対応する技術はIPv6、光通信、そして3Gだという。

ただし、IPv6への移行では、ルーティング管理やエンドツーエンドのセキュリティ管理といった新たな課題が生まれる。これに応えるべく、ノーテルでは複雑なIPv6ルーティング環境を管理できるツールや、アイデンティティ管理と統合されたIPv6対応のセキュリティポリシーフレームワークを提供すべく開発中であると氏は語った。

ShowNet TVでは、愛・地球博会場と結んで非圧縮HDTV転送の双方向配信実験

6月9日には、Interop Tokyo会場と愛・地球博会場をギガビットネットワークで結んだ非圧縮HDTV転送の双方向配信実験が公開された。1.5GbpsのIPv6マルチキャストで伝送されているとのことだったが、画像の品質の高さには、目を見張るものがあった。

横河電機は、光パケットスイッチを使った40Gbpsの映像データ伝送デモ

Interop Tokyoの数多くの展示の中でも、ひときわ注目を浴びていたのが横河

電機の「40Gbps光パケットネットワークシステム」のデモだ。

今回の実験では、同社が独自に開発した「光パケットスイッチ」と既存ネットワークと光パケットネットワーク間をインターフェイスする「光メディアマネージャ」を使用して光パケットレベルでの超高速ルーティングができることを紹介していた。

同社によると、この成功によって光パケットによる通信の実用化が10年早まり、2006年度には製品化を予定しているとのことだ。

高まるセキュリティへの関心を反映し多くの来場者を集めたセキュリティパビリオン

Interop Tokyoでは、「パビリオン」と名づけられた特定のテーマに特化した展示スペースが設けられたが、中でも「セキュリティパビリオン」は最近の不正アクセス事件に触発されてか、数多くの来場者を集めて盛況だった。

とりわけ、SoftEtherへの関心は高く、ShowNetのデータセンターにもVPNサーバー「SoftEther VPN Server 2.0」が設



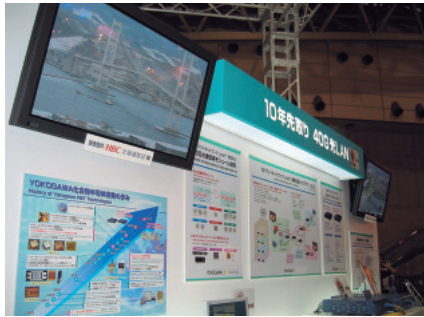
「Interop Tokyo 2005」展示会は、幕張メッセのHALL2からHALL8までを使い約300社が出展するという盛況ぶりだった。



Interopの会場には、10Gbpsの転送が可能なShowNetバックボーンが敷設された。その詳細はウォーキングツアーで学ぶことができる。



ShowNet TVでは、Interop会場内のスタジオと愛・地球博会場を結んで1.5Gbpsで非圧縮HDTV転送の実験が公開された。



横河電機の光パケットスイッチによる40Gbpsの映像データ転送デモ。光スイッチ素子およびフォトダイオードは自社開発。

置され、会場の外から ShowNet 上のコンテンツを見ることができた。

また、シーフォーテクノロジーのブースでは、画像特徴量抽出技術のアプリケーションソフトウェアを展示。カメラ付き携帯でチラシに印刷された画像を撮影することで、インプレスのモバイルウェブサイトに誘導するというデモンストレーションを行っていた。

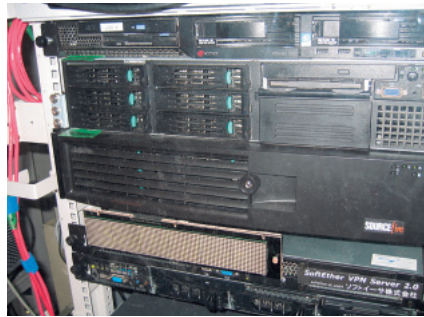
無線 LAN は点から面へ

Nortel の「Wireless Mesh Network」

Nortel が展示した「Wireless Mesh Network」ソリューションは、ワイアレスアクセスポイントを多数配置して広いエリアをカバーする無線 LAN システムだ。自己検出と自己修復アルゴリズムを持ち、ダイナミックなルーティングができ、また利用者の移動を追跡するハンドオーバー機能も備えている。

「Best of Show Award」が決定

展示会初日の夜には「Best of Show Award」の授賞式も開催された。同賞は、インターネット関連の有識者やプレス関係者で構成される中立的な委員会が、優秀な展示製品・サービスを表彰するもの。今年はコンパクトな筐体に高密度なポート実装を実現したファウンドリ・ネットワークスの BigIron RX-Series をはじめとした、右表のような製品が選ばれた。



ShowNet に設置された「SoftEther VPN Server 2.0」。会期中は「Virtual ShowNet Cafe Client」が提供され接続することができた。



インプレスのブースで開催された記念セミナーには、WIDE プロジェクトの村井純氏も登場。

セミナーのビデオ映像が視聴できます [139 ページ](#)

プロダクトアワード部門		
インフラ構築製品 (Core)	グランプリ	ファウンドリ・ネットワークスジャパン「BigIron RX-Series スイッチ」
	特別賞	シスコシステムズ「Cisco XR 12000 シリーズルータ」
インフラ構築製品 (Edge)	グランプリ	シスコシステムズ「シスコ 1812JW セキュア ワイヤレス ルータ」
インフラ構築製品 (Middle Range)	特別賞	アラクサラネットワークス「AX7800S 高密度ポート・ネットワークインタフェース機構」
	特別賞	エクストリーム ネットワークス「Summit X450 シリーズ」
ネットワークセキュリティ製品 (Network/Communication Security)	グランプリ	SonicWALL, Inc.「SonicWALL ゲートウェイアンチウィルス」
	特別賞	シスコシステムズ「シスコ ASA 5500 シリーズ」
アプライアンス関連製品	グランプリ	日商エレクトロニクス/Azul Systems「Azul コンピュータアプライアンス」
PC・サーバ・ストレージ・周辺機器 (ハードウェア)	特別賞	ユニバースエレクトロニクス/ブライストリーム・ネットワークス「ブライストリーム BN1200 Off-Load SSL NIC カード」
	特別賞	ユーティースターコムジャパン「MediaSwitch」
IP Communication 関連製品	特別賞	NEC「SIPHIA」
ファシリティー関連製品	特別賞	MOBOTIX JAPAN/MOBOTIX AG「MOBOTIX M10 ネットワークカメラ」
	特別賞	横河電機/横河エムアンドシー「ポータブルデータステーション デイタム(ワイ)」
ネットワークマネジメント関連製品	グランプリ	コムワース/Apcon, Inc.「INTELLAPATCH ファミリー」
	特別賞	フルーク・ネットワークス NetTool インライン・ネットワーク・テスター」
ホームネットワーキング関連製品	該当なし	
モバイル・ワイヤレス製品	グランプリ	Firetide, Inc.「HotPort High Performance Mesh Network」
	特別賞	沖電気工業「MPEG-4 Encoder RS-M」
情報セキュリティ製品	グランプリ	Verdasys, Inc./三井物産セキュアディレクション「Digital Guardian」
	特別賞	アイアンポート システムズ「IronPort C シリーズ v4」
評価関連製品	特別賞	コムワース/Communication Machinery Corporation「EmulationEngine XT」
アプリケーションソフトウェア	グランプリ	日本ラッド/C-nario Ltd.「C-nario Messenger」

ソリューション部門		
ネットワークソリューション	特別賞	横河電機「光パケットネットワークシステム ynet」
セキュリティソリューション	特別賞	ソフトバンク・テクノロジー/MacroMedia, SIDC.「クイック Security e-learning ソリューション」

Best of ShowNet デモンストレーション部門		
	グランプリ	NTT コミュニケーションズ
	特別賞	アラクサラネットワークス

Best of ShowNet プロダクト部門		
	グランプリ	摂津金属工業

ベンチャー部門		
	グランプリ	ブレサイズケージ
	特別賞	スマートワイヤレス

財団法人マルチメディア振興センターとMCFが発表

## モバイルコンテンツ関連市場規模は4,616億円

財団法人マルチメディア振興センターとモバイル・コンテンツ・フォーラム(MCF)は共同で、2004年のモバイルコンテンツ関連市場規模を発表した。

モバイルビジネスは、着信音系、ゲーム系などデジタルコンテンツを配信する「モバイルコンテンツ市場」と、物販系(モバイル通販)、サービス系(興行チケット、旅行チケット、航空チケットなど)、トランザクション系(証券取引手数料、オークション手数料)の3分野で構成された「モバイルコマース市場」がその中心となっている。この両市場を合わせた2004年(1月~12月)のモバイルコンテンツ関連市場規模は4,616億円。対前年比131%となった。

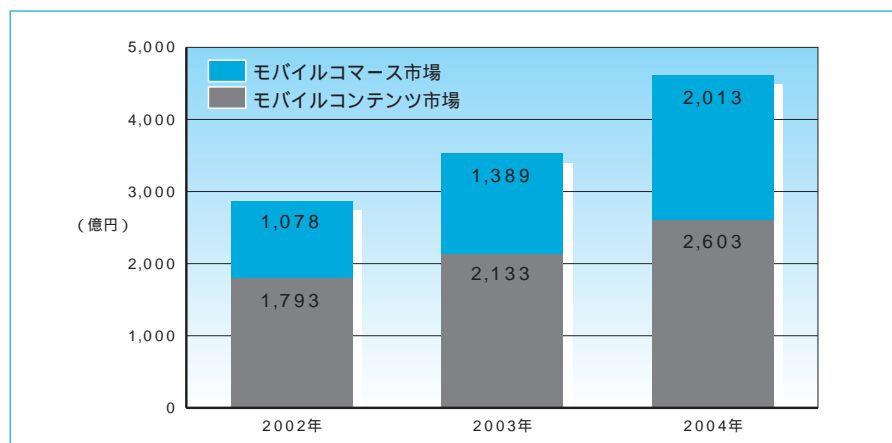
このうち「モバイルコンテンツ市場」は、2,603億円(対前年比122%)。第2世代携帯電話向けのコンテンツに代わり、着うた、ゲームのような第3世代向けのリッ

チコンテンツ市場が急成長している。マルチメディア振興センターとMCFは、今後定額制の普及が本格化してくることで、モバイルコンテンツ市場は3G・定額制時代を前提としたモデルに移行すると予想している。

一方、「モバイルコマース市場」は、

2,013億円(対前年比145%)と初めて2,000億円を超えた。物販系、サービス系、トランザクション系の3分野のうち、特に物販系の成長が顕著だった。また、2004年はモバイルオークションが急成長したのも大きな特徴だという。

<http://www.mcf.to/>



2004年のモバイルコンテンツ関連市場規模

アジア地域のブロードバンド関連事業者に向けたカンファレンス/展示会

## 「Broadband World Forum Asia 2005」パシフィコ横浜で開催

世界各国からブロードバンドテクノロジー関連の事業者が集まる「Broadband World Forum Asia」が横浜・みなとみらい21のパシフィコ横浜で開催された。

このイベントは、カンファレンスが充実しているのが特長。5月30日から6月2日までの4日間、メトロネットワーク、IPビデオ、ギガビットイーサネットポロジ、802.16xおよび802.11ワイアレスブロードバンド、高

速モバイルインターネットといった最新テクノロジーについてのセッションが数多く催された。

展示会は、5月31日と6月1日の2日間、午後のみ開催というスケジュールであったが、欧米や日本のテクノロジーベンダーに加えて、アジア各国からの出展者も多く見受けられ、それぞれ特徴のあるプロダクトやサービスをアピールしていたの

が印象深かった。

中でも、MPEG4によるEnd-To-EndのIPTVは、DSLやFTTHの帯域でTV放送と変わらない高画質の映像が伝送できることをデモし注目を浴びていた。SD解像度のMPEG4リアルタイムエンコーダーやForward Error Correctionシステムといった製品も見受けられ、興味深い展示となっていた。



「Broadband World Forum Asia 2005」展示会の会場風景。多くの展示パネルが英語表示となっていて、雰囲気はまさに国際展示会。



NTTエレクトロニクス「CWDM波長多重送信装置」は2芯光ファイバーで最大8チャンネル双方向通信ネットワークを構築できる。



台湾Nu Channel Inc.「ブロードバンドパブリッシング」アプリケーションは、雑誌と同様にレイアウトされ、ページめくりできる。

2008年は無理でも米軍のIPv6対応は確実

## 米国のIPv6 関連カンファレンスで関係者が討論

2005年5月下旬に米国ワシントンD.C.で開催された「Coalition Summit for IPv6 2005」では、米国防総省の進めるIPv6対応のネットワークインフラ構築計画を中心に、IPv6に関する詳細な議論が開かれた。国防総省をはじめ、陸・海・空軍のIT担当者がスピーカーとして参加し、IPv6利用に向けた取り組みと今後の計画について改めて語った。

現在のIPv4を使ったインターネットも、米国防総省のネットワークシステムに端を発したものだ。しかし、IP通信は米軍のオペレーションの隅々まで行き渡っているわけではない。特に戦場における情報交換では、目的やシステムに応じてさまざまな通信技術が使われているのが現状だ。戦闘員と非戦闘員の区別すら困難になりつつある現代の軍事紛争においては、従来のように組織階層をなぞる情報

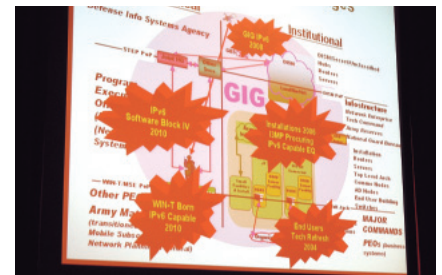
流通ではなく、リアルタイムに関係者すべてが情報を統合的に共有する仕組みが不可欠とする「Net Centric Warfare ( ネットを軸とした戦闘態勢 )」の考え方が支持を広げてきている。IPv6の採用はこれを背景とし、独自プロトコルを使用してきた各種システムも対象に含めた形で進められている。

国防総省のCIO、リントン・ウェルズ氏は、「軍全体、ひいては同盟国やNGOが、ダイナミックに協力し合い、情報を共有し合えることが基本的なテーマ」と話した。

同氏は、128ビットのアドレス空間により、兵士や装備をネットワークに直結し、グローバルな情報空間を形成できること、端末間でセキュリティを確保できること、プラグアンドプレイ機能によってアドホックなネットワークの構成やメンテナンスが大幅に簡素化されること、などからIPv6が

必要になるという。

実際にIPv6がコアプロトコルとして利用開始される時期については、当初2008年が目途とされていた。しかし、ウェルズ氏は、移行の完了がいつになるかは状況によって変わると話した。今後の試験的利用などを通じ、IPv6が軍の求める相互接続性やセキュリティ、パフォーマンスなどのニーズを満たせるかどうかを確認されなければならないと述べた。



陸軍のIPv6移行計画に関するプレゼンテーション

デジタル百葉箱を世界にばらまこう

## コンソーシアム「Live E!」が設立される

デジタル百葉箱の草の根的な設置を推進するコンソーシアム「Live E!」が5月12日に設立された。これは、インターネットに直結できる気象観測ユニットをボランティアとして各地に設置、これらユニットから得られた環境や交通などのさまざまなデータを自由に活用できる環境づくりを目的としている。

WIDEプロジェクト、IPv6普及・高度化推進協議会などを発起人とし、江崎浩東京大学教授を主査とするこのプロジェクトでは、企業、団体、個人の会員を広く募集する。

会費は50万円程度になる予定で、会員はデジタル百葉箱を入手して、任意の場所に設置・運営する。これらの百葉箱で観測された気温、降雨量、気圧、湿度、風速、風圧などのデータは、百葉箱への直接アクセス、あるいはデータサーバーを

通じて提供される。会員は自身のプライバシーに関する考えに基づいて、提供データの種類を制限することも可能だ。

これらの元データは、誰もが自由に集計などの処理を加えて利用できる。一般のインターネットユーザーが観測データを容易に閲覧できるようなツールの提供も期待できるという。

現在よりも大幅に気象観測点が増えることで、気象情報サービス企業は、予報の精度を上げたり、情報に付加価値を加えたりすることも考えられる。教育分野では、環境教育の教材として利用できるほか、高校レベルではデータの可視化や処理手法を学ぶための素材としても利用できる。

また、将来的には、デジタル百葉箱に無線LANアクセスポイントの機能や、他のセンサー機能などを持たせることによ

り、用途を拡張していくことも考えられるという。

気象観測ユニットとしては、当初エシエロン・ジャパンが作成したIPv4、IPv6デュアルプロトコルのシステムが提供される。しかし、機器はこれに限定されるものではなく、今後データ記述形式や通信手法などをオープンにしていき、さまざまな機器メーカーが参入できるようにする。

このコンソーシアムには、設立発起人として13の企業・団体が参加している。佐賀大学(近藤弘樹教授)、広島大学(相原玲二教授)などを中心に、「インターネット百葉箱」という名でネットワーク直結型の気象観測ユニットを全国各地の学校に展開し、教育利用を図るプロジェクトがすでに行われてきたが、このプロジェクトも今回のコンソーシアムに参加することになっている。

## ライブドアが公衆無線 LAN 接続サービスに参入 月額 525 円「D-cubic」を 10 月から本格開始

ライブドアは 5 月 16 日、公衆無線 LAN 接続サービス「D-cubic」(ディーキュービック)を開始すると発表した。

公衆無線 LAN 接続サービスは、すでにヤフーや NTT コムが手がけているが、アクセスポイントが分散しており、加入者は伸び悩んでいる。ライブドアは電柱を中心に小型のアクセスポイントを多数設置することで山手線圏内のほぼ全域をカバーし、「アクセスポイントを探し回る必要がない無線インターネット接続サービス」を目指すという。まず、2005 年 7 月末より首都圏の一部エリアで無償試験サービスを開始し、10 月の本サービス開始時には 2200 か所にアクセスポイントを設置。2006 年 3 月までに 6200 か所、その後 1 都 8 県の 6 万か所に拡大する予定だ。

使用するのは 2.4GHz 帯の 802.11g/b 規格で、802.11a、802.11n、WiMAX(802.16a)

などの採用は未定としているが、アクセスポイントの拡大にあたっては、2005 年中に WiMAX の商用サービスを開始する YOZAN のネットワークを利用する模様だ。インフラ構築は、他に光ファイバーを持つパワードコムや無線チップメーカーのアセロスコミュニケーションズなど 8 社が支援する。

料金は月額 525 円。堀江社長は記者発表で、業界最低価格での提供により、モバイルにおける ADSL を目指すと語った。



パワードコム中根 滋氏(右)と堀江社長(左)

## イー・アクセスとニフティ、事業化後の MVNO 可能性を共同で検討

イー・アクセスとニフティは 5 月 31 日、イー・アクセスが 1.7GHz 帯を使用して東京都内のエリアなどで実証実験を進めている W-CDMA ならびに HSDPA(High Speed Downlink Packet Access)方式での高速ワイヤレス通信事業において、ニフティがイー・アクセスの通信インフラを利用してサービスを提供する「仮想ワイヤレス通信事業者」(MVNO: Mobile Virtual Network Operator)として事業を展開する可能性について、共同で検討することで合意したと発表した。

イー・アクセスとニフティは、ADSL のホールセールにおいて 2000 年のサービス開始当初からのパートナーであるが、この合意によって、今後はモバイルブロードバンド事業においても、パートナーシップを組んでいくこととなった。

<http://www.eaccess.net>

## イー・アクセス、Mobile WiMAX の利用を総務省に提案

イー・アクセスは 5 月 20 日、現在参入を希望している 3G 携帯電話システム W-CDMA(HSDPA)の補完システムとして、Mobile WiMAX(802.16e)の利用を「ワイヤレスブロードバンド推進研究会」(総務省主催)に提案した。

今回提案した Mobile WiMAX は、すでに固定電話向けに標準化されている、アンテナ 1 台で半径 50km をカバーし、最大通信速度 70Mbps を実現可能な WiMAX(802.16a)のモビリティ機能をサポートした無線通信規格で、この 9 月に標準化される予定。

同社は、W-CDMA と Mobile WiMAX との併用により、ユーザー密度の高い地域でも周波数を有効利用でき、高速伝送のニーズにも応えられるとしている。導入時期は 2009 年、6GHz 以下で 445MHz 幅の周波数割り当てを希望している。

## 2006 年春のサービス開始に向けて続々と登場 ボーダフォン、KDDI が 1 セグ放送向け携帯電話端末の試作機を開発

ボーダフォンは 5 月 12 日、1 セグ放送(地上デジタルテレビ放送)が受信できる携帯電話端末の試作機を開発したと発表した。

また KDDI も、携帯電話型の受信端末の試作機をすでに発表している。

携帯電話端末向けの地上デジタル放送サービスは、地上デジタル放送の電波を 14 セグメントに分割し、そのうちの 1 個を携帯端末向けの放送専用割り当てるところから、国内では通称「1 セグ(1 セグメント)放送」(伝送速度約 400kbps 程度で、音声・映像・データを送信)と呼ばれ、2006 年の春にサービス開始の予定。このサービスでは、デジタルテレビを視聴しながら、メールやウェブを利用できる。

ボーダフォン端末の映像受信再生は、「H.264/AVC ベースラインプロファイル、レベル 1.2」、KDDI 端末は現段階では

MPEG-4 となっているが、1 セグ放送規格の H.264/AVC への対応はスムーズに行えるとしている。また、音声圧縮については、両者とも MPEG-2 AAC-LC(Low Complexity、AAC の簡易型符号化方式)を採用。データ放送表示では、規格言語「BML」の携帯版をサポートしている。



右がボーダフォンの端末(シャープ製)、左は現在開発中の KDDI の端末(日立製作所製)で、上部楕円部分に映像用アンテナチューナーと復調器を内蔵。

モバイル向け新サービス  
「Google 携帯サイト検索」ベータ版開始

Google は6月16日、新しいモバイル向けサービス「Google 携帯サイト検索」を開始した。

このサービスは、携帯電話のブラウザで閲覧できるサイトを検索対象としており、iモード、EZweb および Vodafone live! から利用できる。

サービスを利用するには、携帯電話のブラウザから <http://google.co.jp> にアクセスし、検索キーワードを入力し、ラジオボタンの「携帯サイト(BETA)」を選択して検索を実行する。

検索結果には、通常のパソコンからの検索ではアクセスできないサイトも含まれており、同社では、これまで見つけにくかった携帯向けにつくられているサイトを、より迅速、簡単に探すことができるとしている。

<http://mobile.google.co.jp>

総務省、1.7GHz帯又は2GHz帯の  
周波数利用のあり方について意見を募集

総務省では、新たに携帯電話用として使用することが可能になる1.7GHz帯および2GHz帯の周波数の利用のあり方について、「携帯電話用周波数の利用拡大に関する検討会」における意見交換を踏まえて、これまで検討を行っていたが、6月3日、これらの周波数を使用する特定基地局の開設に関する指針案等を公表するとともに、意見募集を行うと発表した。

指針案の概要によると、1.7GHz帯は、15MHz幅の全国バンドと20MHz幅の東名阪バンドを設け、全国バンドは新規参加希望者(最大2者)に対して当初5MHz幅ずつ割り当て、残りの帯域は周波数のひっ迫に応じて割り当てる。一方、東名阪バンドについては、新規・既存事業者を問わず周波数のひっ迫に応じて5MHz幅ずつ割り当てる。

<http://www.soumu.go.jp/>

NICT、次世代光ネットワークにおける  
10GbE-LANPHY 相互接続検証に成功

情報通信研究機構(NICT)は次世代光ネットワーク(OTN)におけるキャリア間相互接続インターフェイス技術の確立を目指して相互接続実証実験を推進しているが、これまで各社が先行的に実装を進めてきた10GbE-LANPHY/OTNインターフェイスの相互接続性を世界で初めて確認でき、あわせて転送効率100%と約10マイクロ秒という小さな遅延時間で情報転送ができていたことを定量的に評価したと5月31日発表した。

この実証実験は、NICT けいはんなオープンラボ相互接続性検証ワーキンググループによるもので、今後はOTNにおけるキャリア間相互接続インターフェイス技術の早期確立と、国際標準化制定に向けた研究開発を加速していく予定とのことだ。

<http://www.nict.go.jp/>

総務省、2005年3月末時点の国内  
ブログ利用者数は延べ約335万人と発表

総務省は5月17日、ブログとSNSの現状分析及び将来予測を算出・推計し公表した。

発表によると、2005年3月末時点の国内ブログ利用者数は延べ約335万人、アクティブブログ利用者(少なくとも月に1度はブログを更新している人)数は約95万人、ブログ閲覧者数は約1,651万人。2007年3月末にはそれぞれ約782万人、約296万人、約3,455万人に達すると予測している。

また、2005年3月末時点の国内SNS参加者数は延べ約111万人、アクティブSNS参加者(少なくとも月に1度はSNSを利用している人)数は約80万人。2007年3月末にはそれぞれ約1,042万人、約751万人に達すると予測している。

<http://www.soumu.go.jp/s-news/>

2005/050517\_3.html

「jig ブラウザ」の無料版  
「jig ブラウザ FREE」が提供開始

jig.jp は、昨年10月に発売開始したパケット定額制対応のフルブラウザ「jig ブラウザ」の無料版である「jig ブラウザ FREE」を6月13日より提供開始した。

「jig ブラウザ FREE」は1日10ページまで閲覧できという制限はあるものの、ドコモ mova 504i 以降に対応しており、幅広いユーザーが利用できるのが特長。同社では、半年で100万ダウンロードに達すると見込んでいる。jig.jp では、今後は無料版の「jig ブラウザ FREE」で幅広いユーザーを獲得し、さらに高性能なフルブラウザを求めるユーザーに有料版「jig ブラウザ」を提供していきたいとのこと。

また、ユーザーの満足度がより向上するように「jig ブラウザ」の機能追加およびバージョンアップを行っていく。

<http://bf.jig.jp/>

Movable Type コンテスト 2005 開催  
応募期間は6月29日から9月16日まで

GMO ホスティングアンドテクノロジーズは、利用者の拡大によって急速に発展しているブログ市場での更なる活性化を目的として、Movable Type で作成されたサイトのコンテストを6月29日から9月16日までの期間を設定して実施する。

共催は、シックス・アパート、メディアカイト、ライトアップ、フィールド、グロービスほかの各社。

応募資格は、Movable Type で作成されたコンテンツを応募時点から結果発表までの期間、広く一般的に公開しているサイトを開設している法人/個人で、コンテスト専用サイト(<http://mt.rsh.jp/>)から申し込む。総合性、操作性、デザイン性、独自性、コンテンツ内容などが審査され、グランプリ、準グランプリ、優秀賞、審査員特別賞などが授与される。

審査結果の発表は、10月中旬の予定。

アップル、WWDC 2005でMacにインテル製CPUを搭載すると発表

米アップルコンピュータのスティーブ・ジョブズCEOは、6月6日から10日にサンフランシスコで開催されたWWDC 2005において、Macにインテル製CPUを搭載すると発表した。

ジョブズCEOは、インテル製CPUを搭載したMacを1年後の2006年6月まで出荷すると宣言。また、2007年中には移行を完了するとロードマップを明らかにした。

インテル製CPUを採用することにした理由としては、IBMがCPU「PowerPC G5」で3GHzのクロック周波数をなかなか実現できず、またPowerBookへ搭載できる低電力版のPowerPC G5がなかなか提供されない点をあげた。

また、過去5年間、インテル版のMac OS Xも並行して開発が続けられていたとして、Pentium 4で動くMac OS X 10.4を披露した。

米国特許法、「先願主義」へ移行か  
米下院議員が特許制度改革法案を提出

米国下院議員のラマー・スミス氏は6月8日、ハイテク企業をはじめとするビジネスに混乱をもたらしている現行の特許制度を改革する法案「patent Reform Act of 2005」を下院に提出した。

スミス氏は、「この法案によって特許侵害訴訟の乱用を抑止することで、個人および企業が開発費を得やすくなり、雇用の創出と事業の拡大を促し、ひいては米国が世界各国から羨望される製品やサービスをもたらすことになる」と語った。

この法案では、最も早く出願した発明者に特許権を与えるとしているのが特徴。また、現行の特許法§ 112では、出願者が発明を実施するための「ベストモード」を記述することを要求しているが、新法案ではその必要がない。

<http://lamarsmith.house.gov/news.asp?FormMode=Detail&ID=648>

フュージョンとスカイプ  
IP電話サービスで連携

フュージョン・コミュニケーションズは6月6日、スカイプテクノロジーS.A.と、両社の提供するIP電話サービスを連携するゲートウェイ機器の開発で提携することに基本合意したと発表した。

このゲートウェイを利用することで、FUSION IP-Phoneの利用者は、スカイプのIP電話ソフト「SKYPE」とフュージョンのIP電話サービスを連携させ、SKYPEをダウンロードしたパソコンで、050番号のIP電話への着信を受けることが可能となる。

たとえば、FUSION IP-Phoneサービスを利用しているユーザーが外出先で「SKYPE」のソフトフォンを起動すると、オフィス電話への着信を指定した「SKYPE」のソフトフォンへ自動的に転送することが可能となる。なお、サービスの提供時期および価格は未定。

第3回アクセス解析カンファレンス  
来場者数40%増で大盛況のうちに終了

「6月9日はログの日」として開催されてきた「アクセス解析カンファレンス」だが、第3回となる今回は6月2日に東京・中野のサンプラザで開催され、来場者数は第2回の1,500人から4割増となる2,100人にも上った。

このカンファレンスでは、展示会とセミナーが合計6つの会場に分れて開催されたが、どの会場も熱心な企業マーケターであふれ、立ち見も続出。特に実践的なアクセス解析手法などを解説する「特別講演」は、すべて申し込み受付開始から約3日間で席が埋まってしまふほどの人気だったという。

実行委員会によると、今回はセミナー登録者の約7割が非IT系企業のマーケティング担当者であり、この割合は回を重ねるごとに増えてきているとのこと。

次回開催は、11月下旬の予定。

スカパー！が携帯に番組配信  
スカパー・モバイル設立

株式会社スカパー・モバイルの設立記者会見が6月14日行われ、新会社の概要が発表された。

スカパー・モバイルは、モバイル端末へのコンテンツ配信や、モバイル端末を利用した広告・プロモーションを主な事業とし、秋頃をめどにサービスを開始する。まずは、2分半から5分程度の動画コンテンツを配信する予定。

同社に出資したのは、スカイパーフェクト・コミュニケーションズ、ACCESS、Jストリーム、ナノ・メディアの4社。スカパーチューナーと携帯との連動など各社の技術ノウハウの提供により、モバイルプラットフォームの構築が可能となった。

今後は事業領域をメディアとツールの両面から、「コンテンツ配信」「広告・マーケティング」「認証・課金」に3つに分け、相互連携していく。

国内初のレンタルサーバー専門イベント  
HOSTING-PRO 2005が開催される

「HOSTING-PRO 2005」が6月16日、東京都江東区のタイム24で開催され、展示会場と各種セミナーがに延べ940人のホスティング関係者が来場した。中でも『レンタルサーバー完全ガイド』の統計データを元にrentalserver.orgのメンバーが行ったパネルディスカッション「レンタルサーバー事業者必読! 190社のデータが明かす次の一手」には、180人も来場者が集まり業界の動きに耳を傾けた。



「レンタルサーバー事業者必読! 190社のデータが明かす次の一手」会場

「WIRELESS JAPAN 2005」、  
7月13日から東京ビッグサイトで開催

ワイヤレス & モバイルの総合展示会「WIRELESS JAPAN 2005」が7月13日から15日まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催される。

展示会場は4つのゾーンで構成され、「モバイルサービス/モバイルフォン」ゾーンでは、携帯アプリケーション、1.7GHz帯関連、モバイル専用デジタル放送などの展示が、「無線 LAN & ワイヤレスネットワーク」ゾーンでは、無線 LAN、WiMAX、UWB などの標準化動向とサービス事例などの展示が、「端末開発・キーデバイス」ゾーンでは、携帯電話端末の開発をバックアップする R&D ソリューション、開発支援ツールなどの展示が、「コンテンツ & アプリケーション」ゾーンでは、コンテンツやアプリケーション関連の展示が行われる。

<http://www.wjexpo.com/>

合宿形式で技術を習得する  
「セキュリティキャンプ 2005」開催

若年層の情報セキュリティ意識の向上と優れたセキュリティ人材の発掘と育成を目的として、合宿形式でセキュリティ技術の実習と演習を行う「セキュリティキャンプ 2005」が本年も開催される。

日時は、8月2日から7日までの6日間で、参加資格は日本国内に居住する満20歳未満の人となっている。

カリキュラムは、基本科目と専門科目に分れ、基本科目では情報セキュリティの基礎を、専門科目ではプログラムコース、ネットワークコース、サーバーコースの中から受講するコースを選択する。

また、キャンプ期間中は実習だけでなく、セキュリティ業界の最先端で活躍している識者の講義および交流会も実施され、最終日には受講者の研究成果発表会が行われる。

<http://www.jipdec.jp/camp/index.html>

レッドハットとクララオンライン、  
国内ホスティングサービス分野で提携

クララオンラインは6月7日、レッドハットと提携し、「Red Hat Enterprise Linux」をベースとしたサービスの利用が可能になったと発表した。

同社では、この提携を契機として、現在提供している Linux ベースのホスティングサービスのほぼすべてを Red Hat Enterprise Linux に移行する。

また、同社は日本で初めて、OS に Red Hat Enterprise Linux を搭載した VPS ホスティングサービスの提供も開始する。

両サービスのサーバーには、デルの動作検証済みハードウェア「PowerEdge」シリーズを採用。Red Hat Enterprise Linux の長期間セキュリティアップデートおよびハードウェアベンダーによる OS のサポートは、安定した環境を提供するのに最適な構成としている。

<http://www.clara.co.jp/>

## Event Calendar

これから開催される国内外の主要な IT 関連イベントをご紹介します。  
イベント情報掲載希望の方は、次のメールアドレスまでご連絡ください。  
[im-release@impress.co.jp](mailto:im-release@impress.co.jp)

期日	名称	場所	URL
3/25-9/25	愛知万博(2005年日本国際博覧会)	愛知県	<a href="http://www.expo2005.or.jp/jp/">http://www.expo2005.or.jp/jp/</a>
6/29-7/1	第14回 ソフトウェア開発環境展(SODEC)	東京ビッグサイト	<a href="http://www.sodec.jp/">http://www.sodec.jp/</a>
6/29-7/1	第2回 情報セキュリティ EXPO (i-Security)	東京ビッグサイト	<a href="http://www.i-security.jp/">http://www.i-security.jp/</a>
6/29-7/1	第8回 組込みシステム開発技術展(ESEC)	東京ビッグサイト	<a href="http://www.esec.jp/">http://www.esec.jp/</a>
7/7-7/8	ビジネスシヨウ FUKUOKA 2005	福岡国際会議場	<a href="http://www.noma.or.jp/show/bsfukuoka/2005/">http://www.noma.or.jp/show/bsfukuoka/2005/</a>
7/7-7/10	デジタルパブリッシング フェア 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://www.digi-fair.jp/">http://www.digi-fair.jp/</a>
7/13-7/15	ubit 第2回次世代ワイヤレス技術展	東京ビッグサイト	<a href="http://www.ubitexpo.com/">http://www.ubitexpo.com/</a>
7/13-7/15	WIRELESS JAPAN 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://www.ric.co.jp/expo/wj2005/">http://www.ric.co.jp/expo/wj2005/</a>
7/13-7/15	インターオプト'05	幕張メッセ	<a href="http://www.oitda.or.jp/">http://www.oitda.or.jp/</a>
7/20-7/22	e-Learning WORLD 2005-Expo & Conference-	東京ビッグサイト	<a href="http://www.elw.jp/">http://www.elw.jp/</a>
8/2-8/5	Microsoft Tech・Ed 2005 Yokohama	パシフィコ横浜	<a href="http://www.microsoft.com/japan/teched/">http://www.microsoft.com/japan/teched/</a>
8/2-8/7	セキュリティキャンプ 2005	(財)海外技術者研修協会 東京研修センター	<a href="http://www.jipdec.jp/camp/">http://www.jipdec.jp/camp/</a>
9/14-9/16	第7回自動認識総合展	東京ビッグサイト	<a href="http://www.autoid-expo.com/">http://www.autoid-expo.com/</a>
9/16-9/18	東京ゲームシヨウ 2005	幕張メッセ	<a href="http://tgs.cesa.or.jp/">http://tgs.cesa.or.jp/</a>
10/4-10/8	CEATEC JAPAN 2005	幕張メッセ	<a href="http://www.ceatec.com/">http://www.ceatec.com/</a>
10/26-10/27	WPC EXPO 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/wpc/">http://expo.nikkeibp.co.jp/wpc/</a>
10/26-10/28	Security Solution 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/secu-ex/">http://expo.nikkeibp.co.jp/secu-ex/</a>
11/30-12/2	2005 産学官技術交流フェア	東京ビッグサイト	<a href="http://www.nikkan.co.jp/eve/">http://www.nikkan.co.jp/eve/</a>
11/30-12/3	2005 国際ロボット展	東京ビッグサイト	<a href="http://www.nikkan.co.jp/">http://www.nikkan.co.jp/</a>

上記の情報は変更になる場合があります。応募・参加の際には必ず主催者にお確かめください。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)